

「タロウが2階にやって来た」

～アザラン型メンタルコミットロボット
パロとの触れ合いを通して～

神奈川県

社会福祉法人 湘南愛心会
介護老人保健施設 かまくら
認知症棟 塚本 陽子

介護老人保健施設 かまくら

生命を安心して預けられる施設
健康と生活を守る施設

平成15年5月1日開設

入所定員 120床

一般棟 79床

認知棟 41床

通所リハビリ定員 60名



背景

- 年々認知症棟の利用者様の状態が大きく変化。
 - BPSD の出現が増加
- 職員も対応に苦慮している現状がある。
 - コミュニケーションが困難

パロとは？



パロ

- 姿はタテゴトアザラシの赤ちゃん。
- 身長57cm。
- 体重2.7kg。
- 多数のセンサーや人工知能の働きによって人間の呼びかけに反応。

パロの機能



- 抱きかかえると喜んで「キューン」と鳴く。
- 目をパチクリ動かす。
- 豊かな感情表現や動物らしい行動。
- アニマルセラピーと同様の効果がある。

検証

- パロを導入してからの利用者様の関わり方について検証。
- パロが利用者様、スタッフに与えた変化と反応について評価。

方法

① 研究期間 平成26年9月1日～平成27年1月31日

② 研究方法 3名様に対して午前・午後1日 10分20分程の触れ合い。

③ 対象者

A様

- ・男性 85歳 要介護3。
- ・認知症高齢者の生活自立度Ⅲa。
- ・帰宅願望、立ち上がり。

B様

- ・女性 75歳 要介護3。
- ・認知症高齢者の生活自立度Ⅲa。
- ・徘徊。

C様

- ・女性 99歳 要介護5。
- ・認知症高齢者の生活自立度Ⅲa。
- ・声出し、テーブルたたき。

結果

- A様
- ・最初は戸惑った様子。
 - ・犬や猫に話しかけるように「タロウ」と呼ぶ。
 - ・触れ合っている間、立ち上がりなく穏やかな表情と笑顔。
- B様
- ・すぐに笑顔になり、手を差しだす。
 - ・赤ちゃんをあやすような表情。
 - ・徘徊時は軽いぬいぐるみを抱き歩く。
- C様
- ・パロの顔に自分の顔を近づけ抱っこしている。
 - ・すぐにテーブルに置いてしまう

評価

- A様はなぜ立ち上がりなく、穏やかな表情と笑顔見られたか？
→ 長く猫を飼っていたので、その頃を思いだした。
- B様はなぜ歩きだしてしまったのか？
→ もともと働き者で、常に動いていた為、じっとしてられない。
- C様はなぜすぐに置いてしまったか？
→ もともと気を遣う方で、自分だけパロを独り占めして悪いという気持ちがどこかにあると推測される。

考察

- * A様の結果→ 立ち上がり、帰宅願望が一時的に軽減し、笑顔や発語が増える。
- * B様の結果→ 徘徊がなくなり、笑顔や会話が増える。持ち歩くには重たい。
- * C様の結果→ 声出し、テーブルたたきなくなり笑顔が増える。抱きしめるには硬い。

まとめ

パロの導入により、利用者様の
帰宅願望、立ち上がり、徘徊が減少。



介護職員の身体的、心理的負担軽減に
つながると考えられる。

課題

- テーブルに置きっぱなしになっている。
- 充電ができていない。
- 活用方法の検討。

ご清聴ありがとうございました